

【別紙様式 I】 令和5年度 学校評価報告書

学校名 小鮎中学校

厚木市教育委員会の基本目標

- 1 自ら学び、鍛え、未来を拓き、夢や可能性に挑み続ける力の育成【挑戦】
- 2 自他の命や豊かな感性を大切に、多様性を認めながら共に生きていく力の育成【共生】
- 3 変化する社会に自ら進んで関わり、人々と協働してより良い社会を創る力の育成【創造】

校長名 大貫 博

学校教育目標

学校経営の方針

学び続ける力と しなやかでたくましい 心と体の育成

- PDCAサイクルを活用した「学ぶ力」を高める教育活動の推進
- 「安全・安心」に学べる教育環境づくり
- 地域との連携を深める教育活動の推進

今年度の重点目標

(1)教育課程推進部

- ・学習指導要領を踏まえた本校の特色ある教育課程の編成を行う。
- ・プランニングシート及びPDCAサイクルを活用し、評価を定着させる。
- ・小中一貫教育9年間の指導計画を確立し、小中のつながりを円滑にする。

(2)学習指導部

- ・主体的・対話的で深い学びの授業を展開する。
- ・評価と単元テストを意識した指導計画の在り方を検討する。
- ・「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何が身についたか」を検証し、授業を含めた教育活動全般の質的改善を図る。
- ・ユニバーサルデザインを意識した授業を展開する。めあて・まとめ・振り返りの定着。
- ・ICTを活用した授業の工夫を行う。GIGAスクールによって整備されたタブレットの活用を工夫する。
- ・小中一貫教育を意識した小中の学習のつながりを踏まえた学習指導を行う。
- ・授業力向上に向けた校内研究を行う。
- ・人権教育・道徳教育においては、「自己肯定感を高める」「他者との関係づくり」を重点項目とし、自分や他者を大切にする気持ちを育てる。

(3)生き方指導部

- ・キャリア教育を通して、望ましい職業観を育むとともに自己の将来について目標を持ち、自分に合った進路選択ができるようにする。
- ・学級活動・生徒会活動・部活動については、自治的な活動を推進するための手立てを構築し、自ら考えて実行できる生徒を育てる。
- ・総合的な学習の時間の充実に向けて、SDGsに関連した「地域を知る学習」を探求的な学習として取り組む。

(4)保健・安全指導部

- ・食育の充実を図り、食へることへの感謝や意義を学ばせる活動を行う。
- ・自己の心身の発達や心の健康について理解し、生涯を通じて健康の保持増進を目指す生徒を育てる。
- ・日常の清掃活動に目的意識をもって一生懸命に取り組む生徒を育てる。
- ・地域との連携を図り、ボランティア活動を通して地域の一員として奉仕の心を持つ生徒を育てる。
- ・安全・防災教育を通して、災害に対する備え、災害時の適切な行動、不審者対応、交通事故防止など、適切な対応をとることができる生徒を育てる。

(5) 生徒指導部

- ・3年間を見通した生徒指導に当たる。
- ・明るくあいさつができ、礼儀正しく規範意識の高い生徒を育てる。
- ・生徒理解に努め、個に応じた適切な指導を行う。
- ・いじめや暴力をなくすための様々な取組を行う。
- ・支援の必要な生徒については、個別支援計画に基づいた教育活動の展開を行う。

(6) 行事プロジェクト

- ・体育的、文化的、旅行的など、様々な行動を通して、集団への所属感や連帯感を深めさせる。
- ・行事を取り組むうえで、個人や集団の課題を見出し解決できる力を養う。

評価項目・指標等	基本目標との関連	具体的な取組	成果と課題	次年度への具体的な改善策
学校に行くのが楽しいと感じている。	1・2・3	教育相談や日頃からの生徒観察、学級活動等を通して、生徒同士や職員との関係づくりや集団づくりを進めるとともに、分かりやすい授業づくりを進めた。	生徒の様子を見取り、トラブルや悩み等を早期に発見することができ、望ましい人間関係や集団づくりが進められた。また、クロムブックを有効活用することで、分かりやすい授業づくりを進めることができ、生徒たちの学習理解を深め、学習意欲を高めることができた。	チャンス相談の充実と情報共有を進め、個別の支援体制の確立を図る。また、個別に学習支援を進め、「できた」「分かった」を実感させる授業改善を進める。
いじめや暴力等がなく、安心・安全な学校生活が送れている。	1・2・3	各学期に生活アンケートを実施し、生徒が抱える課題の把握に努めた。休み時間は学年フロアに職員を配置し、生徒の活動を見守った。道徳や人権週間等を利用し、生徒の人権意識を高めた。	アンケートで把握した生徒の抱える課題を速やかに職員で共有し、チームとして対応することができた。職員の生徒支援についての意識を高めることもできた。委員会による取組や人権作文の朗読など、生徒の活動を通して、人権意識を高めることができた。	これからもアンケートや教育相談等を通して、積極的な生徒理解に努める。また、不登校傾向の生徒にもチームとして対応し、よりよい方法を模索する。
日常生活や行事を通して、生徒に活躍の場や認め合う場を設定し、自信を持たせている。	1・2・3	学級活動や合唱活動、体育部門の練習などの内容を、生徒と職員が事前に検討することで、生徒が自信をもって活動や行事運営をすることができた。	学級活動や学校行事を中心に、PDCAサイクルに従った活動評価を実施し、振り返りと次段階への展望を確認することができた。また、生徒相互の認め合いができる場面を作り、望ましい集団づくりが進められた。	学級経営担当や生徒会担当、行事担当と連携し、より具体的な学校生活の中で、認め合える場面の振り返りを進めていく。
生徒主体の活動を充実させて集団生活を向上させている。	1・2・3	生徒自らが学校生活を自治できるよう、合唱活動や行事の運営、日常の生徒活動を充実させた。	様々な活動に対して、PDCAサイクルに従った活動評価を実施し、振り返りと次段階への展望を確認することができた。	生徒会担当や学級経営担当とも連携し、計画的に学校生活や学校行事の振り返りを進めていく。
好きな授業や楽しみに思える授業がある。	1	すべての教科担任がユニバーサルデザインを意識した研究授業を行った。また、学力ステップアップ支援員との連携等を通して、より分かりやすい授業展開を心掛けた。また、GIGAスクール端末の機能を活用した分かりやすい授業も実施した。	授業研究や教科部会等で情報交換や意見交換をすることで、授業改善を指導の充実を図ることができた。また、日々の授業の中で学力ステップアップ支援員からの助言やアシストを通して、より分かりやすい授業展開をすることができた。GIGAスクール端末を有効活用できる職員も増えた。	教科指導におけるPDCAサイクルと主体的・対話的で深い学びを定着させるため、積極的に教科部会を開催し、授業改善を図る。また、学力ステップアップ支援員による有効な支援方法についても検討する。

主体的で対話的な活動を取り入れたり、GIGAスクール端末や電子黒板などを効果的に活用するなどの工夫をしている。	1	各学期ごとの校内授業研究を実施し、主体的・対話的で深い学びについての授業力向上を図った。	主体的・対話的で深い学びの実現と、ユニバーサルデザインを取り入れた授業展開に向けて授業研究を進めたことにより、授業力の向上や授業改善が図られた。	次年度は、「ユニバーサルデザインを意識しICTを活用した授業づくり」を研究テーマとして、分かりやすい授業とICTを活用した授業の在り方について各学年が研究授業を行う。
誰に対しても気持ちよくあいさつができています。	2・3	生徒会本部や生活委員会、部長会を中心として、登校時と下校時のあいさつ運動に取り組んだ。また、職員からの積極的なあいさつも心掛けた。	あいさつの推進については、小中の連携した課題として、授業や学級活動の中で生徒と職員が一体となって改善に努めた。あいさつ運動には、自主的に活動に参加する生徒もみられた。全国学力・学習状況調査のアンケートによると、多くの生徒は「誰に対してもあいさつができています」と回答しており、あいさつについて、生徒と職員の間認識の違いがあることが分かった。	次年度は、あいさつについての意識調査を行い、実態に即した取組を生徒会本部を中心として模索する。あいさつ運動の取組は児童会とも相談し、小中で連携した取組を検討する。
生徒や保護者の悩みや相談に親身になって対応することができている。	2・3	職員会議や学年会、生徒指導・支援会議、ケース会議等を定期的に開催し、情報交換や情報共有を図り、指導・支援の充実を図った。	校内・校外の指導・支援体制として、情報交換やケース会議を実施し、情報共有や指導・支援の充実を図ることができ、家庭とも連携が図れた。	今年度同様、指導部会や支援会議、ケース会議を時間割や年間計画の中に組み入れ、定期的に開催していく。
学校だよりやホームページ・緊急メール等で、学校や生徒の様子を地域によく伝えている。	2・3	学校だより・学年だよりを定期的に発行するとともに、学校HPを利用して学校の取組や生徒の活動の様子をタイムリーに発信した。	学校だより・学年だよりを定期的に発行することができ、学校の取り組みや生徒の様子を地域へ広報することができた。学校HPについては、多くの職員が記事を作成するよう努めた。	学校だよりや学年だよりについては定期的に発行しつつ、次年度も学校でのささやかな出来事や普段の様子等を学校HPで積極的に発信できるよう職員に働きかける。
家庭で学校での出来事や友だちの話をしている。	2・3	家庭訪問や三者面談、教育相談等で情報を共有し、家庭との連携を図った。	家庭訪問や三者面談、学期始めの教育相談等を通して、保護者と情報共有をすることができた。また、必要に応じて個々の保護者とも適宜対応し、連携が図れた。	定期的な面談だけに偏ることなく、些細な生徒の変容(良い面・心配な面を含む)について、家庭と積極的な連携を図る。
学校生活の中で、基本的な感染予防ができています。	3	CO2センサーを各教室に設置し、生徒が健康を維持できるよう、適切な換気を徹底した。また、給食の際は机を前向きのままの喫食を実施した。	CO2センサーを導入したことで、空気の汚れを目に見える形で確認することができ、換気の大切さを再認識することができた。給食を前向きのまま喫食することで、感染症の流行を最小限にとどめることができた。	センサーを利用した適度な換気は引き続き行う。給食の喫食方法については、感染症対策に配慮しつつ、対面式を検討する。
防犯・防災の面で、学校は安全対策ができています。	3	避難訓練は、形式的な避難行動ではなく、実際に防火シャッターを作動させ、避難経路を限定した訓練も実施した。また、引渡し訓練については、校舎内での引渡しが厳しい場合を想定し、校舎外での引渡し訓練を実施した。消火器の設置場所も全職員で確認した。「非常口マーク」を点検し、適切な状態に修正した。	避難経路を限定した訓練を行うことで、例年の訓練とは異なる、不測の事態に対応する体験をさせることができた。引渡し訓練については、事前に引渡し方法の変更とねらいを保護者に連絡し、校庭での引渡しを無事に実施することができた。非常口マークだけでなく、雨漏りを含む校舎内の劣化した箇所の修繕を行うことで、生徒がより安全・安心に生活できる環境を整えた。	次年度も、避難訓練は実際に起こりうる災害を想定し、生徒が不測の事態に対応できる力を育成する。引渡し訓練については、体育館での引渡しを小学校と計画している。また、定期的な安全点検を実施し、全職員で校舎内外の安全を確認する。

今年度の学校関係者評価委員会からの意見

学校運営協議会にて、学校の教育活動について報告し、ご理解いただけた。

今年度の学校経営のまとめ ・ 次年度への改善の方針

- ・主体的、対話的で深い学びの推進については、各教科による研究授業を通して研修を深めることができた。次年度は各学年が学期ごとに研究授業を行い、職員全体のスキルアップを目指す。
- ・学級経営については、職員会議ごとに啓発資料が提示され、各担任のスキルアップを図ることができた。これからもチーム小鮎として取り組んでいきたい。
- ・PDCAサイクルは学習面だけでなく、生徒会活動にも有効活用することができた。
- ・新学習指導要領に即した評価については、4月と11月に研修会を行い、適切な評価の仕方とそれに伴う授業の在り方について理解を深めることができた。また、2月には、評価方法についての研究発表会に複数の職員が参加しており、今後、校内で情報共有をして評価についての理解を深める。
- ・CPTAIに学校の教育活動を積極的にサポートして頂いており、これからも地域や家庭との良好な連携を図っていきたい。